講演会

Profile

加藤　タキ

コーディネーター

1945年 東京生まれ。ショウビジネス・コーディネーターの草分け的存在。オードリー・ヘップバーン、ソフィア・ローレンといった海外大物アーティストの日本におけるCM出演交渉などで先駆的な役割を果たした。現在は、講演、TVコメンテーター、各種委員など多方面で活躍。両親が遺してくれた教えを語り継ぐとともに、国際感覚と主婦感覚を合わせもつ女性として好奇心旺盛にさまざまなことに取り組んでいる。

加藤タキさんは、米国留学後に「タイム・ライフ誌」「ニューズウィーク誌」編集部に勤務。その後ショウビジネスの世界に入り独立。コーディネーターの草分け的存在として、海外大物アーティストの起用に尽力されてきました。現在は、幅広い分野でご活躍中です。今回はタキさんの尊敬されるお母さま、女性初の国会議員・加藤シヅエさんの話を交えながら、子育て・教育・介護・人との関わり方など「凛として生きる」をテーマに話していただきました。

「凛として生きる」

「凛として生きる」というのは母が常々申していた言葉です。「凛」。いい言葉ですよね。その気になれば誰でも凛とできます。いちばん手っ取り早く凛とする方法は背筋を伸ばすことです。

自分らしく凛として生きるには、自分を知らなくてはなりません。私はよく鏡で、自分の表情を見ます。笑顔が足りないときにはなぜだろうと考えます。「心にやましいことがあるのかしら。何か不信感を持っているのかしら。何が私をアンハッピーにさせているのかしら」。鏡はとても正直に自分を映し出します。そして、自分を省みる瞬間になるのです。どんなに美人でも、どんなに素敵と思える女性でも、自分を省みない人は美しくない。そう言い切れると思います。常に反省して、謙虚になって、ステップアップしていくことが、凛とした姿勢につながっていくと思います。

私が2歳か3歳になる前、転んで怪我をしました。生まれて初めて見る血に驚いて「うわーっ」と泣きました。母はそばまで来てくれて、目線を同じ高さにしてくれましたが、絶対に手を差し伸べない。さらに大声で泣きましたが、母はにこにこしているだけでした。仕方がないので自分の足で立ち上がりました。その途端、大きな両手で私を抱いてくれました。そして「怪我は必ず時間が経てば治りますよ」と言いました。この経験が私の土台になっています。そのときは分かりませんでしたが、時が経ち、なんども心の傷を負うたびに自分に対して「大丈夫、傷は時がいやしてくれる」と言えるようになりました。

そのとき母は、「あなたの流した血は赤い。人間は人種が違ってもみな同じく赤色の血が流れている。けれど、一人ひとり顔が違うようにそれぞれ違っている」とも教えてくれました。人と自分とは違う。今日私が追求する自分らしさとは何か、自分らしくとはどういうことなのだろうと考えることが始まりました。

私の母は104歳まで生きました。今、永らえていたら109歳です。102歳で舌がんの手術をしたのちも、生きる意欲、好奇心にみちている人でしたが、最晩年の2か月ぐらいは「私はもういいです。精いっぱい生きました。もう疲れました。パパのところに行きたい」と言いました。最後に言葉を交わしたのは、亡くなる約2か月前。母は私にこう言ったのです。「私はまだあなたの役に立っている?」と。生涯忘れません。母は死ぬまで「心で感動する力がある限り、どなたかの役に立ちたい」と言い続けてきました。母は母らしく人様の役に立ち、娘の私の役に立ち、孫の生きる目標の糧になってきました。

皆様も皆様らしく、一人でもいいからどなたかの役に立ち、その実感を味わっていただきたいと思います。それは、生きがいになると思います。できれば、好きなことをして人様の役に立てればなおさらいいです。一人でもどなたかの役に立っているという自負を覚えれば、私はとても幸せに思います。だって、人と私は違うのだから。自分にできることで、好きなことで役に立っているという実感があれば、それは自分らしさにつながっていきます。

凛として生きるとは、その人らしく輝いて生きること。母の教えが多くの方々にも共通のメッセージとなることを願っています。

「凛」として生きてきたお母さまの背中を見続けてこられたからこその「凛」とした生き方を、今回の講演で聴かせていただきました。ご両名の生き方や子育て観には、仕事や育児にもっとも忙しい世代の同窓生への、まさに「凛として生きる」ための必要なエッセンスがたくさん含まれていたのではないでしょうか。

加藤タキさんのサイン入り本プレゼント

同窓生の皆様に素敵なお知らせです。昨年ご好評いただいたプレゼント企画、今年は加藤タキさんのサイン入り著書「四十歳からをどう愉しんで生きるか」を抽選で5名の方にプレゼントいたします。ご希望の方は、住所、氏名、入会期、次に聴いてみたい講演者等を明記の上、下記アドレスまでメールを送ってください。締め切りは平成19年5月31日、沢山のご応募、お待ちしております。（なお当選は発送をもってかえさせていただきます）

midori@moon.ucatv.ne.jp

ミドリの掲示板

第8期卒　日本文学科
荒木しのぶ
（旧姓：小泉）

8期生の皆さん、こんにちは。お元気ですか？私は卒業1年後に結婚して、その翌年の4月に長男を出産しました。（２０００年ベビーです！決して狙ったわけではありませんが^ ^ ;）

そして２００２年12月に長女を出産、上の子のときは吸引分娩だったので、あまり「産んだ」という実感がなかったのですが、このときは自力で産んだので、生まれたときは涙が止まりませんでした。

現在、子供たちは保育所に通っています。息子は年長、娘は年少、二人とも生意気盛りで毎日が闘いです！

今年の夏休みには念願の家族旅行！で、ディズニーリゾートへ行って来ました。息子はアトラクションなどひととおり満喫して楽しんでいましたが、娘はミッキーをはじめ、パレード花火とすべて「コワイ、抱っこ」の連続…（ - _ - ;）。日頃は生意気で口も達者なくせに、小心者で怖がりのやんちゃ娘。休みの後、保育所の先生に「楽しかった？」と聞かれて「おいしかった！」と答えていました(*_*)

今回、思い切って誌面に登場してみました！同期の皆さんに反応してもらえると嬉しいです。皆の連絡を楽しみにしています！

翠会からのお知らせ

今回、私たち翠会は会報誌を使って同窓生同士のつながりを広げるコーナーを設けました。掲載された方と連絡をとりたい方は、下記のアドレスにご自分のお名前とメールアドレス、入会期等を明記してメールを送ってください、翠会が責任をもって掲載者の方に転送いたします。なお、掲載依頼も随時募集しておりますので、どんどんこの掲示板を活用してください。なお、翠会では毎年8月に金沢で総会を開いており、著名人を呼んでの講演会や懇親会もご用意しております。是非その機会に、懐かしい皆さんとクラス会を兼ねて集まってみてはいかがでしょうか？（次回の総会は平成19年8月5日です）

※ミドリの掲示板や翠会についてのご質問、ご感想、掲載依頼等はこちらのアドレスまで。midori@moon.ucatv.ne.jp

編集後記

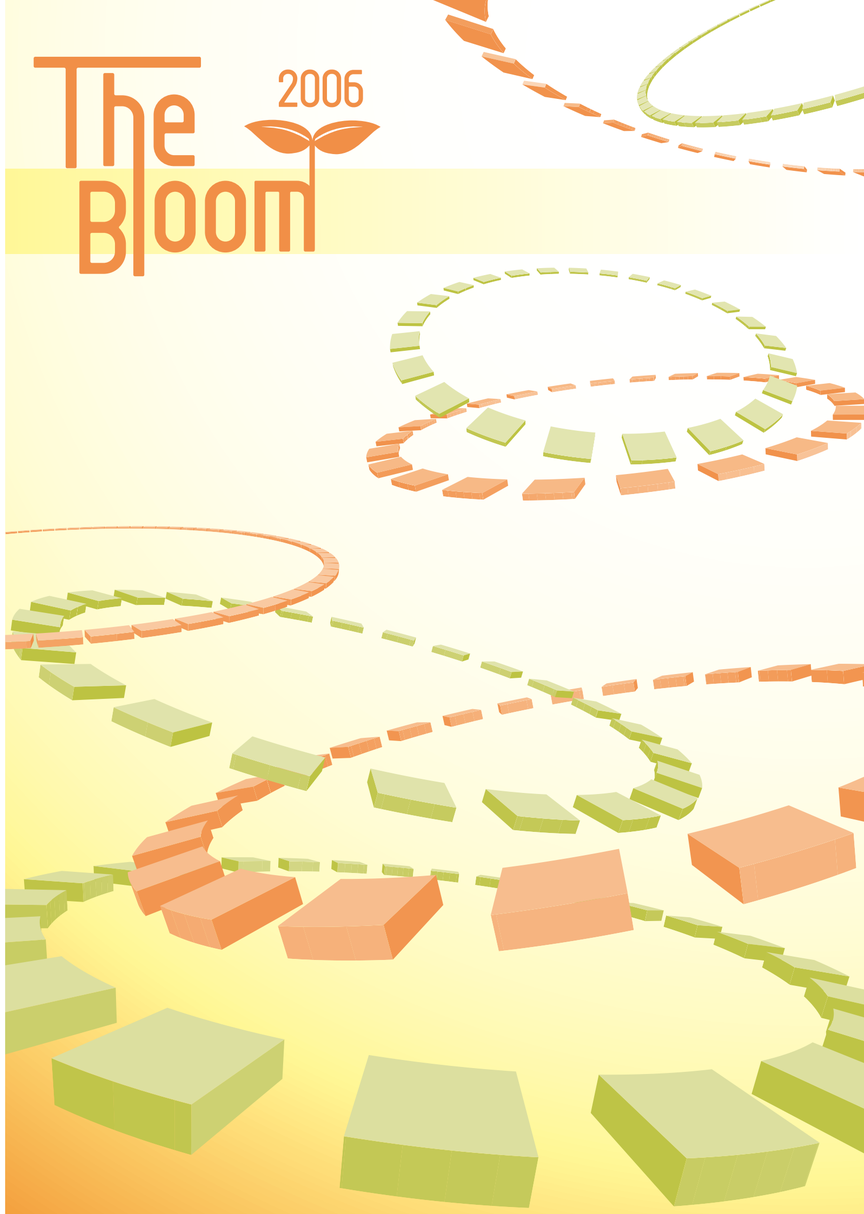
The bloom2006はいかがだったでしょうか？担当２年目となる今回は、「人と人とのコミュニケーション」・「顔」を意識して企画を構成してみました。新企画、「ミドリの掲示板」に近況を載せてくれた荒木しのぶさんは、同窓会を通じて同窓生の輪が広がるようにと、今回の企画に協力してくれました。この流れが会報を通じて同窓生同士の和に繋がっていれば、とても素敵だなと思っています。会報としてはまだまだ未熟だと思いますが、今年よりも来年、来年よりも再来年と、一歩一歩前進していくつもりですので、これからもよろしくお願いします。最後になりましたが、この会報を発行するにあたり、たくさんの方々にご協力いただきました。この場をかりてお礼申し上げます。ありがとうございました。

●ご意見、ご感想はこちらまで。midori@moon.ucatv.ne.jp

翠会会報担当　小村 秀明

■発 行 日　2007年３月
■編　　集　小村　秀明（第９期入会）
■発　　行　「翠会」〒920－1392　石川県金沢市末町10
■取材協力　下置　宏子、愛山つかさ、小林　　寛、村上　丈史

The Bloom 2006



翠会会長あいさつ

学園創立60周年を迎えて

翠会会長
下置　宏子（第1期）

翠会会員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか？

この度、学園創立60周年を迎え、金沢女子大学・金沢学院大学設立に至る歴史の重さを知り、あらためて同窓会の大切さを認識しております。

昭和21年に女子専門学校として創立し、高校、短期大学、大学へと大きく成長してきました。

金沢の教育・文化の礎を築いてくださった諸先輩方、先生方に深く感謝するしだいです。

今年の同窓会事業として、8月に開かれた総会において、コーディネーターの加藤タキさんをお迎えし、記念講演会を開催いたしました。昨年還暦を迎えられたとは思えない美しさとバイタリティーに、同窓会会員をはじめ一般の聴講者の方も大変感激し、またたくさんのエネルギーと教えを頂きました。

昨年に引き続き、著名人による記念講演会を開催できましたこと、そして多くの方に金沢学院大学を知っていただけたことを会員の皆様にご報告し、会員の方々の多数のご参加を心よりお願いするしだいです。

今年は大学創立20周年の節目の年にあたります。この機会に同窓生同士のつながりを深めてみてはいかがでしょうか？20年の歴史は同窓会の歴史でもあり、そこには大変有意義な時間と出会いがあります。今年もまた役員全員気を引き締めて頑張っていきますので、会員の皆様のご理解とご協力を心よりお願いして私のご挨拶にいたします。

翠会総会報告

①会長の熱意のこもった挨拶で、総会が始まりました。　②同窓生の方からの質問にも役員の方は丁寧に答えてくれました。　③急に挨拶を求められ、動揺する役員の方
④一つずつ議題の承認をもらいながら無事、総会は終了しました。　⑤加藤タキさんと、母校を望む　⑥懇親会では同窓生をはじめ、諸先生方も交えて行われました。
⑦加藤タキさんは、お一人ずつゆっくりと会話を楽しんでいるご様子でした。　⑧落ち着いた雰囲気で議長を務めてくれた奥井さんは、第12期生の方でした。
⑨加藤タキさんとの歓談を終えて、みんなでにっこり。

翠会総会に参加して…

第4期卒　日本文学科　矢野　里枝

8月6日に行われました翠会の総会と加藤タキさんの講演、その後の懇親会に参加させていただきました。

卒業後は、私が地元に帰った関係から、なかなかこの様な会に参加すること自体が難しかったのですが、一大決心（?）をして、どのような方とお会いできるのか少し緊張しながら、友人と参加させていただきました。翠会の収支報告の後は、加藤タキさんの「凛として生きる」という内容の講演だったのですが、加藤タキさんのとても前向きに生きてらっしゃる姿には、同性の私も非常に参考になり、また勇気を頂いた講演でした。その後の懇親会でも、加藤タキさんと直接お話をさせていただく機会があり、とても身近な存在として感じることができました。また、私の大学在籍当時にはなかった学部の先生方や、一期生の方ともお話することができ、普段の生活の中にはない非常に有意義で、また楽しい時間を過ごさせていただくことができました。

大学を卒業すると、この様な場に参加することが難しくなってくるのですが、もっとたくさんの会員の方が集まって、会員相互の親交を図ることができれば、翠会の本来の目的に叶うのではないかと思います。

最後になりましたが、同窓会担当役員の皆様、いろいろありがとうございました。

名誉教授 青山克彌先生より

Profile

青山　克彌
「泉鏡花記念館」館長

青山先生の著書
「鴨長明の説話世界」（桜楓社）
「加賀の文学創造」（勉誠出版）
「原本 現代訳・加賀騒動」（教言社）
「金沢市史 資料編15学芸」（金沢市史編纂委員会）

今回のインタビューは、本学創立時から短大や高校でも教鞭をとられていた青山先生です。先生は女子大、学院大を通してもっとも有名な教授のお一人で、現在は金沢市内にある「泉鏡花記念館」の館長をされています。そんな先生に大学での思い出や現在のお仕事について伺ってみました。

先生は大学に何年ぐらいいらっしゃいましたか？

よく覚えてないけど、短大・高校・大学を合わせると40数年になります。現在も名誉教授という職務をさせていただいています。

先生のご専門の分野は？

古典文学の中でも、中世説話文学（鴨長明など）と、加賀能登の古典文学の再評価です。

大学での思い出などをお聞かせ下さい。

北信越の私立大学で国文学科が単独であるのは我が大学だけで、やはり学生のレベルがとても高い印象でした。草創期は特に印象深く、学生達がみんな前向きで野心もあり、粋に燃えていました。また、「演習」の授業での生徒達の自由で活発な発言や発想は多種多様で、私自身にも新たなひらめきをもたらしてくれました。

現在、「泉鏡花記念館」の館長をされていらっしゃいますが、そのお仕事について一言お願いします。

泉鏡花の文学は今でも大変人気があります。私はまず、鏡花の世界を分かりやすくみなさんに伝えることが一番の仕事であり、課題でもあると考えています。鏡花の文学は「幻想文学」と言われるものと、もう一方で日本おける「メロドラマの原型」になったものの2つに大きく分けられ、「義血侠血」や「婦系図」などがその代表です。

平成18年7月には、歌舞伎座の7月公演で「鏡花を観る」と題し、1日4本「夜叉ヶ池」「海神別荘」「山吹」「天守物語」など、すべての鏡花の作品が上演されました。チケットは即日完売し、主催者はもちろん記念館の方々も大変喜ばれたそうで、改めて鏡花文学の奥深さを感じられたなど、お話下さいました。今回のインタビューで、先生の古典文学への熱い思いなどを聞くことができました。これからも、ご活躍をお祈りしております。

泉鏡花文学館ホームページアドレス　http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/bunho/ikkinen/

表紙の作者インタビュー

美術文化学部情報デザイン学科3年　太田　春菜

Q1 今回の表紙のテーマは「コミュニケーション」でしたが、何か意識されたり注意した点はありますか？

以前の表紙とは全く違うイメージにしたいと思い作成しました。ゼミの椋田先生からは、色使いや細かいところでアドバイスを頂きました。

Q2 大学生活の様子や、何か印象に残ったことなどありましたら教えて下さい。

授業では自分の希望することができるので楽しいです。また、去年ヨーロッパに研修旅行で行ったことが自分にとって良い経験になり、印象に残っています。

Q3 将来の希望について教えて下さい。

まだはっきりとは決めていませんが、何かを作成したり、デザインに関わる仕事につきたいと思っています。

デザインは、表紙に限らずその物を表現する顔になる重要なものです。今、翠会は会長をはじめ、役員全体で同窓会という和を広げようと活動をしています。ずっと変わらず愛されるデザインも素晴らしいですが、今はなるべく「変わってきているんだ」という意識を外にアピールできるよう考えており、今回の表紙はそのイメージが十分伝わる素晴らしいものになりました。デザインされた太田さん、本当にありがとうございました。

先輩の職場探訪

当大学の卒業生であります上野泰子さんに、社会人・家庭人としての立場から日頃考えていることや思っていることなどについてお話していただきました。

Profile

上野　泰子　英米文学科（第1期卒）

1991年	株式会社インテック入社、常務取締役、専務取締役の秘書業務を兼務（その間、育児休業を1年3ヶ月取りました）
2005年	総務、社長秘書を1年半
2006年	連結子会社である北國インテックサービス㈱に総務課長として出向、総務・人事・経理を担当。

Q1 今の会社を選んだ理由を教えて下さい。

当時は、情報処理サービス・ソフトウェア開発会社が花形のひとつであったこと、地元では有名で大きな会社のひとつであったこと。（ま、当時の言葉で言えば、ミーハーだったということですかね）

Q2 学生時代に取り組んでいた事、思い出などを聞かせて下さい。

自慢じゃないけど、学生時代に真剣に取り組んだことはない（笑）いたって普通の学生でした。ただ、スポーツについては頑張っていたかな？スキーにのめり込んでいて、資格を取ってインストラクターのアルバイトをしていました。雪国ではない地方の中学生のスキー遠足（修学旅行）に参加して、スキーの楽しさを教えてました。楽しかった思い出は、語学学習でシアトルに行ったこと。

現地の大学での授業やホームステイはいい経験になりました。

Q3 結婚後、出産後もお仕事を続けられていますが、その理由を教えて下さい。

たぶん…仕事が好きだから。日付が変わって帰宅することも多々あり、肉体的にも精神的にも辛い日々が続いていても結局は仕事がおもしろくて好きだから続けているんだと思う。家庭人に向いていないことは確か！

Q4 仕事のやりがいをどんな時、またはどんなところに感じますか？

現在、中間管理職ということもあって、以前よりさらに仕事に対して責任がついてきますが、その分、自分で思ったように仕事をさせてもらっているので、そういったことかな？

Q5 家庭と仕事の両立で大変なこと、心がけていることはありますか？

平日は帰宅が深夜になることが多いので、同居している父母に家のこと、子どものことは任せっきり。最近は休日出勤も多いので、子どもの野球の試合の付き添いは主人頼りっぱなし。でも文句も言わずに協力してくれているので、本当に感謝しています。

その代わり、できるときはとことん家のこと、子どものことに手をかけます。家族の協力なしでは、ここまで好きに仕事は続けられないと思うので、感謝の気持ちは常に持ち続けています。

Q6 最後に、仕事を続けていく上で、または仕事に関係なくても生きていくうえで何か後輩に対してアドバイスをお願いします。

決して自分一人で仕事をやっていると思わないこと。家族、同僚など自分をとりまく人たちの支えと協力があってこそ、仕事が続けられているので、感謝の気持ちを忘れないこと。

人とのコミュニケーションを大切に。今はパソコンや携帯電話で簡単にメールが送れて便利な時代ですが、やはり人は顔を見ながら話をすることで、気持ちが一方通行にならないため、瞬時に相手の考えが分かります。人間関係を築く上で、とても大切な事だと思いますので、どんどん話をしましょう。

人の輪は大きく！そして、その輪を大切にすること。将来必ず自分のためになります。同じ世代だけでなく、世代を超えての輪は、私自身、現在、本当に助けになっています。

絆

日本文学科（第15期卒）
村上　丈史

私が、金沢学院大学を卒業して約2年が経ちました。（現在、私は）学生時代と比べて時間に余裕はありませんが、社会人として充実した日々を過ごしています。時々、学生時代の友人、先輩、後輩と食事に行き、楽しい時間を過ごすこともあります。

時折、学生時代のことを振り返ることがありますが、最初に思い出すのは、学祭実行委員長だった3年生の頃のことです。

当初は"私に実行委員長の立場は務まらない"と思っていました。しかし、本番が近づくにつれ"私は実行委員の人たちに支えられている"と強く感じられるようになり、学祭を成功させるためには私が委員会をまとめなければならないと強く責任感を抱くようになりました。そして無事に学祭を終えた時、私は実行委員や協力してくれた全ての人たちに感謝の気持ちでいっぱいになりました。この気持ちは今でも忘れません。

数え切れない思い出がある中で、学祭実行委員を経験して先輩方や後輩など多くの人と知り合えたことが一番大きいと思っています。考え方が違う人たちと知り合い、話し、意見交換できたことは、私自身の人間形成に大きく役立っています。「私はいい経験と思っているが、他の人たちはどう思っているだろう」と、ふと思ったことがありました。そこで私は、学祭実行委員だった後輩たちの話を聞きたくなり、呼びかけたところ8人の後輩が集まってくれました。正直8人も集まってくれるとは思っていませんでしたので、嬉しかったです。

集まってくれた8人は全員学祭実行委員だった学生で、私の後輩にあたります。久しぶりに会って、学祭実行委員をしていて何を得たか、どう思ったのかなどを聞いてみました。1人1人の話を聞きましたが、共通点がありました。それは、「絆」。

学祭実行委員間の交友はもちろんのこと、他大学の学祭実行委員の人たち、来場してくれた人たち、一般企業の方々と、多種多様の「絆」を得ることができ、いい経験になったと話してくれました。

形はそれぞれ違いますが、お互い支え合い、助け合う、目に見える形で後輩たちが得た「絆」は大事にしてほしいと強く思いますし、私も「絆」の重さを改めて感じました。